平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム あったかいご神子田マルシェ(きらり)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100188		
法人名	株式会社 三共医科器械		
事業所名	グループホーム あったかいご神子田マルシェ(きらり)		
所在地	岩手県神子田町6－12		
自己評価作成日	平成 29年 8月 11 日	評価結果市町村受理日	平成30年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100188-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 8月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、フロアを広く取り、陽光あふれる明るいリビングにゆったりとみんなで楽しく集う場、自由にありのままに暮らして頂く快適な空間を提供しております。裏庭に畑やミニ公園を造り、その人がその人らしい暮らしができるように支援しております。また、協力医と訪問看護との連携を図り、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速に出来る体制をとっております。医療機関との協力体制をとり看取りも行っています。地域での関わりでは、夏祭り等の協力や参加、町内の避難訓練や施設の避難訓練を互いに参加し合うなど、地域の繋がりも持ちながら会社としての理念「共に和み 共に生きる」を軸に施設理念「心・和・楽・笑」をモットーに地域に根ざした施設を目指しております。安全で快適な暮らしができるよう、職員一人一人の質の向上を図りながら取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームマルシェの理念を「心和楽笑(しんわらくしょう)」とし、職員全員で振り返りながら実践に努めている。その理念を基に1階と2階個々の目標を掲げ、職員は、理念の実現に日々努力している。1階と2階の共用の広いホールは、それぞれの利用者の状態に合わせた配慮がされ、ゆったり生活していることが窺われ、また、裏庭には公園のしつらいをし、ミニ公園とするなど、随所に職員の工夫が感じられる。かかりつけ医や事業所の協力医、訪問診療医、訪問看護等、複数の関係機関と連携を密にし、適切な医療の提供と健康管理を実施している。また、利用者と家族、医療関係者とともに、チームで看取り支援を実施している。町内会の避難訓練や事業所の避難訓練に相互に参加しあう等、地域の一員として理解と協力が得られている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成　29　年度　　２　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　グループホーム　あったかいご神子田マルシェ（きらり）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み、共に生きる」という会社全体の理念を掲げている。 マルシェでは「心　和　楽　笑」という理念を職員間で共有し、本人、家族、地域と共に暮らすことが出来るよう支援している。	会社の理念として、「共に和み、共に生きる」を掲げている。なお、事業所として、全職員で作成した理念「心和楽笑」を共有し、日々の介護で践されているか、会議や研修で意識付けしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど施設行事に参加していただくことができている。私たちも、万灯祭り、餅つき大会、地区夏祭りや避難訓練など神子田地区の行事へ参加している。	町内会の関心が高く、開設時から地域の方が事業所の夏祭り等の行事に参加している。事業所も、地区の万灯祭りや避難訓練に参加している。事業所が、水害・地震の避難場所になっている。また、地域には独居の高齢者が多く、衣料品の移動販売車を招致し、利用者共に活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、町内での出来事を踏まえ認知症高齢者施設における防犯訓練の開催を企画し、地域の方にも参加していただけた。入居に関する相談見学は随時受け付けており、聞き取りを通じで簡単な助言を行なう事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では活動報告だけではなく、消防署立会いのもと、災害緊急時の避難訓練や心配蘇生法、盛岡東警察署の協力を得て不審者侵入を想定した防犯訓練などを開催し、地域の方々とともに学ぶ機会をもつことが出来るように努めている。	会議には、町内会長、民生委員、保健衛生推進員、中ノ橋交番、包括支援センター、家族代表が委員として参加している。活動報告の他に、委員と一緒に、避難訓練を行い心肺蘇生法も体験している。今年は、管轄の交番の手助けを得て防犯訓練（不審者対応）も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営にあたり、盛岡市に不明点の回等や助言を求めている。市からのアンケート依頼に答えたり、地域運営推進会議録を提出する等事業所の取り組みを報告する機会を持っている。	市の担当課とは、直接出向いて運営推進会議録を届けたり、認定調査や運営について相談したりと連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止に関する研修を行ない、支援を振り返る機会をもつことができている。現状の支援と比較して見直しをおこなう。ひやりはっと委員会での事例検討や意見交換など職員が知識を深めることが出来る機会を設けている。	身体拘束については、内部での研修を重ねており、職員相互に確認・相談しあうなど、意識が高くなっている。また、会社のヒヤリハット委員会に管理者が参加し、検討事例を会議で再度話し合い、身体拘束をしないケアの考え方等について理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	前述6項と関連し、研修を行なう事が出来ている。支援に関する知識ばかりではなく、職員のストレスマネジメントについても研修を行なった。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり介護支援専門員の資格挑戦等などを通じで学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際、項目を読み上げ説明はもちろん、契約成立後も家族とは希望に応じて話し合う機会をもつことができており理解、納得していただけるよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族も地域運営推進会議に参加して頂き、意見を頂戴している。また、施設アンケートを実施し、解答を周知している。希望時の聞き取りも行なっている。	運営推進会議に、各ユニットから1名ずつ委員として参加している。家族に、利用者の近況を記したマルシェ新聞を送付し喜ばれており、家族の希望で、スナップが見やすいようA4からB4に変更している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用意見箱を設置する事で口頭のみに頼らない意見の汲み取りを行なっている。投稿された意見は月２回の会議で共有し、その場で方針を決定している。	会社を挙げてアメーバ経営に取り組み、職員の意識を高めている。1階では、気づいたときに直ぐ投稿できるよう、職員用意見箱を設置している。意見は会議で検討し、方針を決定し実践している。2階では、気づきを申し送りノートで共有し、会議で意見提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社として「物心両面の幸福を追求する」と掲げ就業環境の整備に努めている。年2回の個別面談を行ない話し合う場を設けている。また、急を要する内容については随時、管理職を中心に聞き取りを行なう。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加している。経験年数や有する資格を加味して、新人職員とマンツーマンでシフトに入り指導できる勤務体制を整えOJTを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属し、研修や交流会に参加し意見交換の機会をもっている。研修での学びや資料等を職員間で共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅介護支援専門員からの情報提供や、家族からの聞き取り、本人との対話から情報を一元化し、職員間で共有する。生活歴を把握することでコミュニケーションの第一歩としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前見学を通じ、今までとこれからの不安を聞き取る機会を設けている。家族が意見、要望などを伝えることが出来るような雰囲気作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員を中心に、職員、本人、家族、医療機関などの情報を元に、利用者が暮らしを継続する事が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にお願い事や活動を促すことのないように努める。若い職員が多く、生活の知恵や山菜など若年層に馴染のない食材の調理方法など教えていただくことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こちらから面会や行事参加へのお誘いだけでなく家族からの提案を受けることがある。利用者の生活歴を聞き取りながら最善策を相談しあう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく友人が面会に来ていただけることもある。前月看取りを行なった方はキリスト教を信仰しており、教会関係者が来所する事もあった。 家族の意向など難しさを感じる場面も多い。	利用開始時に、家族や友人の面会を勧めており、毎日来られてる家族もいる反面、馴染みの場所への外出は、年々困難になってきている。理美容については、男性も女性も訪問美容を利用し、美容師さんと馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個を尊重しつつ、利用者同士が揚力しあう場面がみられる。声量や活動量に配慮し、座席やフロアのレイアウトを変更したりし、現状に即した環境を模索している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族からの相談をうけるなど支援体制は整っている。先日も元入居者の家族の訪問があったばかりである。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの継続を念頭に、本人が今まで大切にしてきた事柄や物を情報として共有している。	家庭と事業所では生活のニーズが変わってくることから、暮らしの継続を念頭に、利用者意向の把握に努め、また、家族や関係者からの情報を大切にしている。職員間では、ベテランと新人の視点の違いも大切にし、利用者の思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述23項と同様に暮らしの継続を念頭に置く。本人や家族との対話、生活歴など記録物を中心に暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や発言などを、都度、生活記録や申し送りノートに様子を記録する。その記録を元に申し送りを行なう。また、意見箱を活用して、会議で議題にあげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意見を取り入れた介護計画を立案する。会議において計画は事前に職員で回覧をし、意見を書き込んだ上でモニタリングを行なうよう仕組みを構築した。	利用者ごとの担当職員が中心となり、アセスメントとモニタリングを実施し、職員会議で、計画を見直している。なお、状態が変わった場合は、職員間で話し合いをし、速やかに計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノート、意見箱などを活用している。些細なことでもメモにする形でチェック表に貼り付け閲覧出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズを汲み取り、通院、外出支援、訪問看護など医療蝕と連携し施設内で点滴の施行など柔軟な対応を行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議を活用し、まずは町内会と連携を図っている。社会福祉協議会を通じて、ボランティア団体とのパイプつくりを行なった。今年度も新しい団体に慰問に来て頂けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で、今までのかかりつけ医を継続して利用できる旨を説明する。現状、7名の利用者が協力医の往診を利用しており、家族からは往診の相談をうけたり、それに伴う説明を行なっている。	入居前のかかりつけ医を継続し、定期的に受診、往診を受けている。受診時は、家族に、医師への連絡表を渡し、結果を職員間で共有している。薬を届けてくれる薬剤師に不明なことは相談している。歯科については、定期的に口腔ケアを実施し、必要時訪問歯科診療を受けていている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回（火、木）訪問看護を利用している。訪看対応担当者を中心に情報提供を行なう。また訪問看護と連携した研修を開催し、学びを深めることが出来ている。また、個別に訪問看護と契約を結んでいる利用者がいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も利用者への面会を行ない不安解消を図っている。リハビリの進捗状況や現在の様子等の聞き取りも行なう。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に際して可能な限り終末期のあり方について家族、本人と対話を行なう。協力医を中心とした医療機関との連携を図る。平成29年度、1階では1名の看取りを行なった。	入居時「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、本人・家族の意向を確認している。家族や協力医、訪問看護師との連携のもと、開設以来、複数名の看取りを経験している。職員は、訪問看護師と連携し、看取りの研修を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成、閲覧している。前述4項の通り、消防署立会いの心配蘇生法だけでなく会議内で例題を設けたシュミレーション訓練や、通報手順の確認を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「防災必携パンフレット」の作成だけでなく、同町内会にある同系列のデイサービスと災害時の避難マニュアルを作成中である。また、町内会の防災班と協力できるよう、町内会長を中心に確認済みである。平成28年11月には、夜間の避難訓練を実施している。	町内会との協力体制のもと、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施している。昨年実施した夜間の避難訓練の課題をまとめ、現在対応を検討している。「防災必携パンフレット」「災害時の避難マニュアル」を作成中である。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が接遇研修へ参加し、正しい意識を身につけるよう努めている。排泄、入浴、更衣など、特にもプライバシーを確保しなければならない支援については常に意識できるよう会議等職員の意見交換を行なう場を設けている。	会社の接遇研修を全職員が受講している。排泄時や入浴時の誘導、更衣時に個人情報を大きい声で話さない等、プライバシーの確保に留意している。口の中を見られるのが恥ずかしいといわれる方もおり、個々に合ったケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付ける事無く、自己決定できるよう声がけに配慮する。今時期は好みの飲み物を選んでいただいたり、衣服の選択等が日常多くみられている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れに利用者を組み込むことがないよう、本人のペースに合わせた生活の支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	前述37項と同様に自己決定の機会を設けている。月１回の訪問美容では美容師と本人と対話しながら切る長さなど決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの考案、調理、盛り付けなど一緒に出来るよう機会を設ける。食べる事だけが楽しみにならないよう一緒に家庭菜園で野菜を収穫する。平成28年11月には「秋を食べる会」と称して旬の食材を使用した食事会を企画し、家族も招待した。	献立の作成や調理、盛り付け、おしぼり作り、テーブル拭き、野菜の収穫など、出来ることは一緒に行なっている。正月にはおせち、ひな祭りには散らし寿司等の行事食を楽しみにしている。家族を招待して食事会「秋を食べる会」を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、排泄や体重の増減を加味しながら提供する量やメニュー、形状などを考慮している。野菜中心で調理し、たんぱく源を盛り込むようメニュー等も変更、追加している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを題材とした研修に参加し、知識を深めた。訪問歯科による口腔衛生指導をうけたり、助言を求めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録をつけ、その記録が週単位で一覧化されているため、排泄のパターンの把握が容易である。記録に基づいた℃イレ誘導を実施している。今年度は排泄を職員勉強会のテーマとして取り上げ、パットの当て方やコツを確認する機会を設けた。	日々の記録から、排泄パターンを把握し、声かけ誘導し、トイレでの排泄を支援している。また、職員勉強会で排泄をテーマにし、ケアの向上に努力されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用だけでなく、排泄パターンを記録したり、乳製品や飲み物の温度、量等を工夫している。家族から市販の腸内体質改善に効果がある飲み物を預かっている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としている。無理強いはせず、声かけや時間を置く工夫をし誘導する。入浴剤を使用して清涼感を感じていただけるよう支援する。良いコミュニケーションの機会と捉え、合唱が始まることも多い。	週3回入浴できている。気が向かない様子の際には、時間を置いたり、翌日に行うなど、利用者のペースに添う支援をしている。介助しながら、利用者と歌ったり話したり、絶好のコミュニケーション機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りでは起床と入眠の時間を確認する。生活の様子や座位姿勢、活動量を踏まえ臥床する必要性を職員間で共有した。音や光、室温等環境に配慮し消灯や掛け布団調整等就寝環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容を理解、把握できるよう担当者がファイルにまとめ一覧化している。詳細な情報は申し送りノートを活用する。服薬介助時はダブルチェックを行ない、日付、名前、時間帯を声に出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から長年親しんできた活動をアクティビティに組み込んでいる。運動や合唱など利用者の要望にあわせたレクリエーションを実施する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得て、地域のデパートへ外出される利用者はいるものの。日常的な外出の支援は町内を中心とした散歩にとどまってしまっている。行事を活用し、季節感のある場所へ外出できるよう計画している。今年度も、高松の池へ花見、肴町商店街へ七夕見物へ出かけた。	以前より、重度化し、外出の機会が減っているが、季節を楽しむ外出（高松の池の花見、肴町商店街の七夕、地域の行事や祭り見物等）をしている。町内の散歩やミニ公園（園庭）での外気浴を行なっている。外出時には、身だしなみに配慮している。	

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と協力し、可能な利用者は自己管理を行なう。自身で金銭管理を行なう利用者は現在1名おり、近所のスーパーまで一緒に買い物に行く。他の利用者も買い物に行く場合、施設として立替金として対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日の贈り物の御礼にと、娘へ手紙を書けるよう体制を整えた。直接電話がかかってくることもあり、その場合は通話を楽しめるよう音等環境に配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前述21項同様、テーブルやソファーなど家具の配置はもちろん、座席についても希望を踏まえ柔軟に変更している。気絶に応じた装飾を一緒に作成し掲示する。室温と湿度には通年注意していく。	1階は車椅子使用の方が多く、広いホールに、食卓、ソファ、テレビがゆったりと配置されている。2階は、利用者同士の関係性を考慮した食卓等の配置がされている。また、ホールの飾りつけも、それぞれ個性があり、寛げる雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	前述21項、52項に共通してテーブルやソファーの配置を工夫する。気の合う利用者同士が並ぶことの出来るよう席替えを行なった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしの継続となるように、馴染のある家具や思い出の品は持ち込んでいただけることを説明している。ADLを踏まえ、家族と相談のうえ配置等見直す機会がある。	居室は、電動ベッド、洗面ユニット、エアコン、換気扇、クローゼットが備え付けてある。椅子やテーブル等を持参し、家族と一緒に配置をしている。掃除は行き届き、整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の力が発揮されるよう配置や掲示を行なっている。居室には個人の表札を設ける。TVを好む利用者がおり、TVの位置と利用者の席を近くにした。		